

事務事業名		戦没者追悼式開催事業			☐ 実施計画登載事業		☐ 合併建設計画登載事業				
政策体系	政策名	0:9: 関連する政策なし			事業期間		予算科目				
	施策名	9:9: 関連する政策なし					会計	款	項	目	事業
	基本事業名	9:9: 不明					01	03	01	01	26
根拠法令											
所属	部課名	生活福祉部保健福祉課			☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始 昭和60 年度～) ☐ 期間限定複数年度 [計画期間] 年度～ 年度 ※全体計画欄の総投入量を記入						
	係名	児童家庭係	電話内線	27-3111 183							
事務事業の概要 (具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)						全体計画 (※期間限定複数年度のみ)					
①事務事業の内容 市主催の戦没者追悼式(無宗教・献花方式)の開催に関する事務 ②業務の内容 式典の案内状送付、会場準備、式典の運営、後片付けなど ③事業費の内訳 会場借上料、祭壇用菊花代、白布クリーニング代						総投入量 (千円)	事業費 内訳	国庫支出金			
								都道府県支出金			
								地方債			
								その他			
								一般財源			
								事業費計 (A)	0		
								正規職員従事人数			
延べ業務時間											
人件費計 (B)	0										
トータルコスト(A)+(B)	0										

1 現状把握の部 (DO)

(1) 事務事業の目的と指標			
① 手段 (主な活動) 前年度実績 (前年度に行った主な活動) 戦没者追悼式を開催する。 今年度計画 (今年度に計画している主な活動) 前年度と同様	→	⑤ 活動指標 (事務事業の活動量を表す指標)	
		名称	単位
		ア 戦没者追悼式の開催回数	回
		イ	
② 対象 (誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等 戦没者とその遺族	→	⑥ 対象指標 (対象の大きさを表す指標)	
		名称	単位
		カ 戦没者数	人
		キ 遺族会会員数	人
③ 意図 (この事業によって、対象をどう変えるのか) 追悼式を開催し、戦没者を慰霊するとともに、遺族に弔意を表す。	→	⑦ 成果指標 (対象における意図の達成度を表す指標)	
		名称	単位
		サ 式典の参列者数	人
		シ	
④ 結果 (基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか) 戦争の悲惨さ、愚かさを後世に伝える。	→	ス	

(2) 総事業費・指標等の推移			年度	17年度 (実績)	18年度 (実績)	19年度 (実績)	20年度 (実績)	21年度 (実績)	22年度 (実績)	
投入量	事業費	財源内訳	単位							
		国庫支出金	千 円							
		都道府県支出金	千 円							
		地方債	千 円							
		その他	千 円							
		一般財源	千 円	371	193	311	305	223	324	
		事業費計 (A)	千 円	371	193	311	305	223	324	
	人件費	正規職員従事人数	人	1	1	1	1	1	1	
		延べ業務時間	時 間	150	150	150	150	200	150	
		人件費計 (B)	千 円	600	600	600	600	800	600	
トータルコスト(A)+(B)		千 円	971	793	911	905	1,023	924		
⑤活動指標			ア	回	1	1	1	1	1	
			イ							
			ウ							
⑥対象指標			カ	人	1800	1800	1800	1800	1800	
			キ	人	956	956	956	855	835	855
			ク							
⑦成果指標			サ	人	360	360	360	350	400	380
			シ							
			ス							

事務事業ID	0164	事務事業名	戦没者追悼式開催事業
--------	------	-------	------------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？
昭和60年度から市主催の戦没者追悼式（無宗教、献花方式）を行うこととなった。

② 事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？
遺族も高齢化しており、身体の不自由な方も多く、交通手段も限られているため、追悼式を開催しても参列者が減少していくことが考えられる。

③ この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？
特になし。

2 評価の部 (SEE) ＊原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性	☒ 見直し余地がある ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 結びついている ⇒ [理由] 意図することは、上位施策のどの項目にも該当しない。
	② 公共関与の妥当性	☒ 見直し余地がある ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 妥当である ⇒ [理由] 式典の開催自体は、市が任意で決定すべきことであり、事業を廃止することは可能である。
	③ 対象・意図の妥当性	☒ 見直し余地がある ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 適切である ⇒ [理由] 事業を廃止し、新しい事業を実施することで市民全体に成果を拡大させることが可能である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地	☒ 向上余地がある ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 向上余地がない ⇒ [理由] 事業を廃止し、新しい事業を実施することで成果を向上させることが可能である。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響	☐ 影響無 ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 ⇒ [その内容] 事業を廃止・休止した場合、遺族会などの関連団体から存続要望が出される可能性がある。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性	☒ 他に手段がある (具体的な手段, 事務事業) 市民生活環境課(人権関係)、学校教育課(学校運営関係) など ☒ 統廃合・連携ができる ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒ [理由] ①遺族を含んだ戦争体験者の講演会(学校行事、公民館行事等) ②遺族を含んだ戦争体験者に関する広報記事の掲載など ☐ 他に手段がない ⇒ [理由]
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒ [理由] 会場はリアスホールとしてこれまでの会場借上げ料を削減することができたが、その他の費用は削減困難な祭壇用菊花代が大半を占め、また、東日本大震災により式典用道具が流失したことから新たに用意する必要があるため、これ以上の事業費縮減を図ることは困難である。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒ [理由] 事業運営面では、企画運営を委託するという考え方もあるが、委託したとしても市内部での日程調整等で少なからず市職員の関わりは必要であることから、人件費は削減できるが効率性とは言い難い。 作業面については、前日の会場準備に例年大船渡市遺族会よりステージ設営人員の協力を得ている。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である ⇒ [理由] 一部の事業者や個人に効果が及んだり、事業の経費との間に因果関係が認められるわけではないので受益者負担金を徴する必要はない。しかしながら、式典の開催には職員(スタッフ要員含み)の人件費がかかっており、多額の一般財源を投入している。

事務事業ID	0164	事務事業名	戦没者追悼式開催事業
--------	------	-------	------------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること)		(2) 全体総括(振り返り、反省点)																					
① 目的妥当性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ② 有効性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ③ 効率性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	平成21年度以降は、リアスホールでの戦没者追悼式開催ということもあり参加者が若干増加したものの、遺族の高齢化は進行しており、身体の不自由な方も多くいることから、式典に参加すること自体が難しくなっていくと考えられる。 将来的には、式典を開催するという方法にとらわれず、目的に沿った別の事業を構築していく必要があるが、現時点では遺族の参加者も多数あり、県主催の戦没者追悼式も引き続き行われる見込であることから、当分の間は現状維持とする。																						
(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可)		(4) 改革・改善による期待成果																					
☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☒ 現状維持 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 戦後60年を経過し、市として戦没者を追悼、供養するという事業の目的は一応は達成されたと考えられる。したがって、当分の間現状維持とはしつつも、県や県内他市の状況を参考としながら、将来的には追悼式を廃止し、市民全体に戦争の悲惨さを伝えられるような新しい事業を構築すべきである。 ※新たな事業例 ①遺族を含んだ戦争体験者の講演会(学校行事、公民館行事等) ②遺族を含んだ戦争体験者に関する広報記事の掲載など		左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果</th><th>向上</th><td></td><td></td><td></td></tr><tr><th>維持</th><td></td><td>●</td><td>×</td></tr><tr><th>低下</th><td></td><td>×</td><td>×</td></tr></table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		●	×																			
	低下		×	×																			
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等																							
遺族の式典参加者も多数あることから、直ぐには廃止できないと考える。今後、式典のあり方について、さらに事務改善委員会等で検討したうえで、将来的には事業を廃止すべきと考える。																							

(職 名) ※原則として施策の主管課長

4 事務事業の2次評価結果

2次評価者	保健福祉課長
-------	--------

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合

- ①記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択)
- ☐ 記述不足でわかりにくい
- ☐ 一部記述不足のところがある
- ☒ 記述は十分なされている
- ②評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択)
- ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されていない)
- ☐ 一部に客観性を欠いたところがある
- ☒ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)

(2) 2次評価者としての評価結果

- ① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ② 有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり

(3) 評価結果の根拠と理由

適切な事務執行がなされている。

(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可)

- ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☒ 現状維持
- 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善)

(上記方向性に対する具体的な内容)

戦没者の遺族は年々高齢になっているが、今後も必要な事業であり継続することが望ましい。

(5) 改革・改善による期待成果

左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。

(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持		●	×
	低下		×	×

5 最終評価結果

(1) 行政経営推進会議等での指摘事項